

KMCパーキンソン病体操研究会

代表：坂尻顕一（金沢医療センター脳神経内科）

1. これまでの取組内容
2. 具体的な成果
3. 今後も継続して実施する必要性
4. 今後の取組と期待される効果

1. これまでの取組内容

- 目的：パーキンソン病患者やご家族、パーキンソン病診療に携わる医療介護職に、パーキンソン病の理解と症状の改善のためのスキルを身につけてもらう。
- 内容：平成**28**年度から、年に**1-3**回、パーキンソン病に関する講演と体操教室、患者同士の交流と医療サイドからの的確な助言を施行。令和**3**年～令和**4**年度はコロナ蔓延のため**web**開催も取り入れた。令和**3**年度からは、かほくいきいき体操教室とのコラボ開催している。

2. 具体的な成果

年度	開催月・参加人数
平成28年度	①体操教室：7月、10月（計数なし） ②セミナー等：3月（59名）
平成29年度	①体操教室：4月（93名）、7月（80名）、10月（58名） ②セミナー等：3月（51名）
平成30年度	①体操教室：7月（80名）、11月（82名） ②セミナー等：2月（37名）
平成31年度	①体操教室：8月（62名）、11月（50名） ②セミナー等：3月（16名）
令和2年度	①体操教室：新型コロナウイルス感染症の蔓延予防のため中止 ②セミナー等：2月（WEB開催30名）
令和3年度	①体操教室：10月（27名） ②セミナー等：3月（WEB開催62名）
令和4年度	①体操教室：11月（25名） ②セミナー等：3月（49名）
令和5年度	①体操教室：1月（66名） ②セミナー等：3月（16名）
令和6年度	①体操教室：9月（98名） ②体操教室・セミナー等：3月（150名）

※体操教室の参加対象者は、主に県内在住のパーキンソン病患者さんご家族。疾患の理解を深め、体操の重要性を理解して頂いている。
セミナー等の参加対象者は、主に県内医療関係者、介護従事者。体操療法の重要性に関する理解を深めて頂き、県内医療介護施設で実践する動機付けとなっている。
また、新型コロナウイルス感染症により、参加者が減少した時期もあったが、再び参加者が増加してきている。

3. 今後も継続して実施する必要性

- 毎回パーキンソン病体操教室への参加者から、是非同様の機会を継続して欲しいとの要望が強い。
- 石川県パーキンソン病友の会からも同様の要望が強い。
- 参加メンバーの変遷もあり、継続することでより多くの方に、繰り返し体操の重要性をアピールすることで、理解を深める必要がある。
- また、パーキンソン病の知見や新規治療薬は、年々進歩し、iPS細胞はデバイス治療法の開発も著しい分野であり、継続する必要がある。

4. 今後の取組と期待される効果

- パーキンソン病体操教室を金沢市のみでなく、石川県内の広域に拡大した。
- パーキンソン病診療介護に携わる種々の関係者の輪を広げたい。現状では、難病支援センター、パーキンソン病友の会、保健所、かほくいいきいき体操教室とコラボしているが、民間（歩行補助ロボット）との連携も計画している。
- 高齢者のフレイル予防にも体操を含む運動の重要性が喚起されている。特にパーキンソン病では運動不足で衰弱が加速する。当研究会が事業を継続することで、パーキンソン病患者の健康維持に貢献できると確信する。